

平成22年1月

# 井上雅史 学位論文審査要旨

主査 汐田剛史  
副査 井藤久雄  
同 池口正英

## 主論文

Intraperitoneal administration of a small interfering RNA targeting nuclear factor-kappa B with paclitaxel successfully prolongs the survival of xenograft model mice with peritoneal metastasis of gastric cancer

(NF- $\kappa$ B siRNAとpaclitaxel併用腹腔内化学療法がヒト胃癌腹膜播種モデルマウスの生存期間を有意に延長させた)

(著者：井上雅史、松本幸子、齊藤博昭、辻谷俊一、池口正英)

平成20年 International Journal of Cancer 123巻 2696頁～2701頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、*in vitro*でNF- $\kappa$ B siRNAが胃癌細胞のNF- $\kappa$ B産生を抑制することを証明した。また、*in vivo*において、ヒト胃癌腹膜転移モデルマウスでは、パクリタキセル単独を腹腔内投与するよりも、NF- $\kappa$ B siRNAとパクリタキセルを腹腔内投与することにより、マウスの生存期間を劇的に延長することを明らかにした。これらの結果は、将来的に、siRNAを用いた胃癌腹膜転移における新しい治療が開発される可能性も示唆しており、本研究は、消化器癌治療における学術の水準を高めたものと認められる。